

病防第44号  
令和5年（2023年）12月22日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）  
このことについて、発生予察特殊報第4号を公表しましたので送付します。

## 特 殊 報

令和5年度（2023年度）発生予察特殊報第4号  
令和5年（2023年）12月22日  
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 リュウキュウミカンサビダニ
- 2 学 名 *Phyllocoptruta citri* Soliman et Abou-Awad,1978
- 3 発生作物 ポンカン（ミカン科）
- 4 発生確認の経過  
令和5年（2023年）9月、県内のポンカン栽培園でミカンサビダニによる被害と酷似した「さび症状」を呈している果実が発見された（図1）。  
被害部の表面にはミカンサビダニと同じフシダニ科の寄生が認められた（図2）。  
当該園では前年も秋季以降の被害が観察されており、県内で通常発生するミカンサビダニよりも遅い時期の被害発生であったため、法政大学植物医科学センターに本虫を送付し、同定を依頼した結果、リュウキュウミカンサビダニと同定された。  
発生は一部の地域に限られ、付近のほ場でも部分的にさび症状が見られたが、同地域外での発生は確認されていない。
- 5 国内の発生状況  
本種は、平成3年（1991年）に沖縄県で発生が確認された。その後、鹿児島県（奄美大島、屋久島、本土）や東京都小笠原諸島で発生が確認されている。また、農研機構果樹研究所口之津拠点（当時）内での発生報告例（上遠野ら，2013年）がある。
- 6 形態、生態及び被害の特徴  
(1) 形態  
乳白色～橙黄色の細長いくさび型で、ミカンサビダニとほぼ同じ大きさである（雌の体長は約0.16mm、雄は雌よりやや小さい）。また、200倍以上の生物顕微鏡で観察すると、虫体背面がU字型にへこみ、後方に向かって溝を形成していることが確認できる。ミカンサビダニの虫体背面に溝はない（図2，3）。

## (2) 生態及び被害

本種は中晩柑や在来のカンキツ類に寄生し、果実に著しいさび症状を引き起こす（農林水産省，1995，植物防疫病害虫情報）。

はじめ果実の上部が淡褐色の小斑点となるが、次第に果実表面が黒褐色～赤褐色になる。果実や葉で越冬した個体が、春先に春葉、その後果実で増殖し、秋季に多発するのが特徴のようであり、果実の被害で初めて発生に気づくことが多い（堀江，2005）。

本県においても葉の被害は目立たず、秋季以降に果実の被害によって発見されやすい。症状では従来から発生しているミカンサビダニとの区別がつかない。

## 7 防除対策

(1) 本種に適用のある薬剤散布により防除する。

(2) ミカンサビダニと混発する可能性があるため、発生園では従来のミカンサビダニを対象とした防除時期（梅雨明け直後及び8月下旬～9月上旬）に加え、秋季（10月以降）の防除も行う必要がある。



図1 果実の被害（令和5年9月20日撮影）



図2 果実表面に寄生した本種（実体顕微鏡）



図3 形態の特徴（生物顕微鏡）

熊本県病害虫防除所  
（農業研究センター 生産環境研究所内）  
担当：清永、岡島  
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493